

日本語を母語としない子どもたちとともに

JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

平成30年10月 第6号

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第6回 研修会 日本語指導担当教員研修講座 9月20日(木) 博多小学校



教育センターの日本語指導研修「日本語指導担当教員研修(第3回)」として、小学校3年生の国語科「進行を考えながら話し合おう『つたよう、楽しい学校生活』」の授業で、3人の対象児童の実態に応じた支援の有効性を中心に検証授業を行いました。

授業の導入では、上級生の話し合いの様子を動画で見て、上手な話し合いについてイメージをもたせた後、話し合いに使う表現を練習する活動をしました。その際、「賛成」「反対」を示すフラッグを使わせるという手立てをとって、自分の意見を述べる経験を積ませていました。その後、実際に「ワールドルームの紹介をする内容」を決めるための話し合いを行いました。司会の児童には進行表を渡したり、教師も話し合いに加わったりして、在籍学級でも自信をもって話し合い活動参加できるようにというねらいで指導がなされていました。

協議会においては、「日本語と教科の目標の関係」や、「手立ての有効性」について活発な討議が行われ、研修を深めることができました。



第7回 研修会 日本語指導担当教員研修講座 10月3日(水) 城香中学校

10月3日(水)、日本語指導担当教員研修(第4回)として城香中学校で東エリア中学校拠点校を担当されている日高美和先生からJSL社会科の授業を提案していただきました。

今回は、関東地方の学習で、「～ということが読み取れます。」「～ということがわかります。」などの表現を使い、在籍校授業での話し合いに参加することができるという目標に向けて、さまざまな手立てを打たれていました。まず、理解支援のために写真やグラフなどの多くの視覚教材を使い、生徒の理解を促されていました。また、表



現支援のために実際に予想を立てているモデルビデオを見て、意見の述べ方や表現を学び、在籍学級での話し合いに参加できるように工夫されていました。対象生徒は授業の終わりには、予想を立て、意見を言う際の表現を習得することができていました。

協議会では、授業を通してさまざまな視点での協議が行われ、大変意義深いものになりました。